

前 奏 黙想	祈 禱
招 詞 コリントの信徒への手紙二 5:17	讃 美 歌 354 かいぬしわが主よ
讃 美 歌 54 よろこびの日よ	獻 金
祈 禱	讃 詠 547 いまささぐるそなえものを
信仰告白 使徒信条 566	黙 禱
聖 書 民数記 21:7~9	主の祈り 564
ヨハネによる福音書 3:13~16	頌 栄 541 父、み子、みたまの
讃 美 歌 285 主よ、み手もて	祝 禱
説 教 『悔い改めて主のものとなる』	後 奏

「神は、その独り子をお与えになったほどに世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためにある(ヨハネ3:16)」。クリスマスからこの言葉をずっと默想していた。神は独り子を人間としてこの世にお遣わしになった。送りっぱなしだったわけではない。神は、人間イエスの言葉やふるまいとして共におられ、十字架への道を共に歩まれ、十字架の死に際しては神が「人間」の苦しみを負われた。それほどまでに世を愛された。創造された宇宙に満ち満ちている御心と愛を、御子イエスを遣わした「世」へギュッと絞り込んでいる。漏斗で水を一点に集中させるイメージか。

「信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためにある(3:15)」。言葉は念を押すように、変奏してくれ返されるゆえに、心の内に留まらせておきたい。「信じる者が皆(3:15)」、「信じる者が一人も滅びないで(3:16)」。滅びない対象は「信じる者」だけなのか。漏斗で「世」に集められた神の愛は、さらに選別されて、信じる者だけに注がれるのか。それにしても「信じる」とは、どの程度の熱意を言うのだろうか。誠実に聖書を読み祈りながらも洗礼を受けない者がいる。その一方、受洗はしたものの教会から遠ざかってしまう者がいる。いったい誰が、神の独り子を「信じる」者に適合するのか。

分らない。私たちの感情や選びは一日一日違うし、「放蕩息子(約15:18~19)」のようでもあり、「金持ちの青年(マタイ19:20~22)」のようでもあるからだ。また「善きサマリア人」のように慈愛ある異教徒もいる(約10:33~35)。だから誰が「信じる者」の枠に入るのか、外れるのかは分らない。教会は「洗礼」をその基準にしているが、傍から見れば「信仰と実体が違うじゃないか」と思われるだろう。

「モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない(ヨハネ3:14)」。民数記にはこうある。「主はモーセに言われた。〔あなたは炎の蛇を造り、旗竿の先に掲げよ。蛇にかまれた者がそれを見上げれば、命を得る〕。(民数 21:8)」。「蛇が人をかんでも、その人が青銅の蛇を仰ぐと、命を得た(21:9)」。「毒蛇」は、神とモーセに逆らう(21:5)人間が抱える「罪」という毒なのだ。民は己が罪を悔い改める(21:7)。青銅の蛇は神の「赦し」。すなわち「信じる」とは、赦されている徵に他ならない。

「モーセが荒れ野で蛇を上げたように、人の子も上げられねばならない。それは、信じる者が皆、人の子によって永遠の命を得るためにある(ヨハネ3:14~15)」。「モーセが上げた蛇」が示すように「信じる者」とは、罪を悔い改めて「赦された者」のこと。イエスの言葉やふるまいに賛同し、十字架と復活を「理解する」だけでは足りない。己が心を御前にさらして、己が罪を悔い改める者こそ赦される。

「そんなに厳しいと俺など無理だよ」と思うだろう。私自身そうした条件に適合しているとは言い難い。だからイエスの十字架が起った。「そのときイエスは言われた。〔父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです〕(約23:34)」。「人の子が上げられる(ヨハネ3:14)」のは天(3:13)と言うより、「旗竿の先の蛇(民数 21:8)」からイメージされるように、十字架の上ではなかったか。

十字架で赦された私たちは、信じる者として「永遠の命を得る(ヨハネ3:16)」。永遠の命とは、信じる「独り子」と結びつき、生きていても死んでいても、永遠なる神の傍らで「私」として存在すること。

「信じる」と「赦される」はどう重ねられるか 形態や運動では捉えられまい 本日礼拝後は役員会。カレーの日です。どなたでも遠慮なくお召し上がりください。2/4(水)1:00~3:00 教会カフェ。次主日 2/8 の礼拝後に「教会規則」に関する話し合い。ご出席お願いします。
--

礼拝堂・集会所の住所 : 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ : 408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

eメールは komechan.olive@gmail.com HP は「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。